

基本目標

2 ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化

重点施策

1 ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める 担当課(館)

① 「主体的実践力」強化の視点から、ふるさとキャリア教育を進化・深化

学校教育課
教育研究所

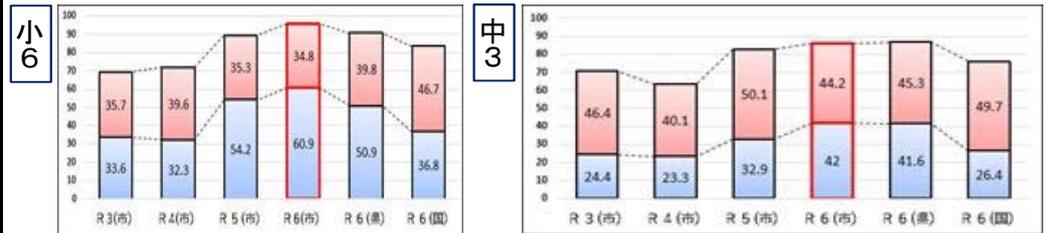
活動内容

ふるさとキャリア教育13年目を迎え、これまでの各校の百花繚乱作戦や子どもハローワーク、子どもサミットなどの取り組みを一層充実させるため、子どもの「主体的実践力」を強化するという視点から振り返り価値づけていく。そして、子どもたちが大館盆地を学び舎に「ひと・こと・もの」へ主体的に関わることで、ふるさとへの愛着を深め、「未来大館市民」として成長するための教育的効果を高めていく。

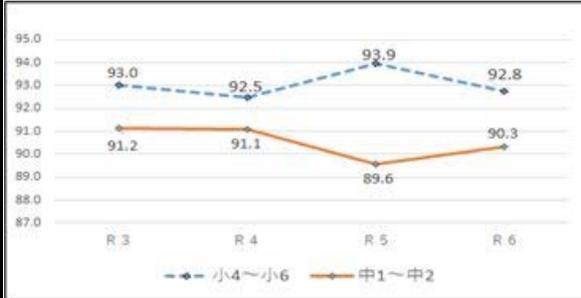
点検評価

- 目標を上回る (達成率100%超)
- 目標どおり (95~100%)
- 目標をやや下回る (80~94%)
- 目標を大幅に下回る (80%未満)

【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問】Q:地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。



【県学習状況調査 児童生徒質問紙】Q:地域のためになる活動に進んで取り組みたいと思う。



どちらの結果を見ても、地域社会のために行動をおこしたいと考える児童生徒の割合が非常に高い。
 (1)子どもハローワーク参加人数はのべ約1250名となり、昨年度より100名増。
 (2)子どもサミットの運営委員が家電リサイクルプラントを見学し、議場で行われた代表会議にて報告。
 (3)各学校の百花繚乱作戦が、新聞に多数掲載。

課題等

(1)子どもハローワークについては、受け入れ先が少しずつ増え、児童生徒の参加数が増えていることは大変喜ばしいが、新たな体験場所を開拓したい。
 (2)子どもサミットにおいて、継続してきた活動の他にも取り上げたい議題はないかサミット委員に考えさせたい。
 (3)今後も各学校における百花繚乱作戦において、地域の人たちと積極的に関わる活動を継続し、児童生徒の社会的使命感が高まるよう期待している。

取組の方向性

- 継続
- 廃止検討
- 単年度

学識経験者等意見

事業の立ち上げから担当がどれほど難儀したか、現場でも対応がどれほど困難であったかを理解している。子どもハローワークや子どもサミットと良い結果が出ている。子どもたちの成長も含めて実績を学校へフィードバックし、管理職などへの意識付けを図って続けてもらいたい。成果としては、これまでベクトルが学校から学校外へ向けられていたが、今は地域から学校へベクトルが向かっている印象を受ける。現場の先生も含め子どもたちの意欲感を高ぶらせ、事業を継続しているようで感心している。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実
活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。特に不登校対策については、毎月実施している「欠席調査」において、欠席状況の実態を正確に把握し、年度の切り替わりにおける情報の引き継ぎを確実に行うことで、切れ目のない支援体制を構築しながら、学校への情報提供や助言をこまめに行う。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>不登校及び不登校傾向の児童生徒数は、昨年度に比べ微増傾向にあるが、成果点としては、関係機関との情報共有による諸問題への対応及び支援体制の充実が挙げられる。毎月の欠席状況調査の分析の他、夏季休業中の市内全小中学校との情報交換会や年3回の子育て相談会の実施などによって、いじめ・不登校等の諸問題を抱える児童生徒の情報を共有し、その対応について協議している。このことが、各校での一人一人に応じた具体的な支援や対応、あるいは家庭との連携によるカウンセリングや各種発達検査などにつながる事ができている。</p> <p>昨年度から、不登校及び不登校傾向の児童生徒及び保護者が悩みを抱え孤立することなく、必要とする情報や支援を得られるように、市内の相談機関等で扱っている活動内容について「子ども、保護者、家庭サポート窓口」として取りまとめ、全家庭に周知している。このことがきっかけとなる相談も増えている。また、これまで市教育研究会学校保健部会が中心となってメディアコントロール力向上に向けた活動が進められていたが、今年度は子どもサミットによる活動として位置付け、子どもたち自身がメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣を身に付けることができるよう様々な取り組みを行っている。</p>
課題等	不登校の原因は様々で多岐にわたるが、家庭状況を背景とするケースも多い。さらに、不登校児童生徒の中には、メディア依存やそれに伴う昼夜逆転の生活の問題を抱える割合が増えている。今後も、各関係機関と不登校の未然防止の取り組みや支援の在り方について連携していくとともに、一人一人の児童生徒に応じた各校における支援体制づくりと組織的対応が迅速に進むよう働きかけをしていく。
学識経験者等意見	不登校児童生徒数の増加は大きな課題であることは間違いなく、さまざまな対策を講じていることに評価したい。特別支援学級編入へのいわゆるグレーの子どもたちについては子育て相談会でいろいろな発見があると思う。相談役が専門的に話をしてくれることで保護者の悩みを把握し、安心させ家庭を自立させながら気付きを促す。保護者への「気づき」の促進、発言という面からも学校関係者より相談会での相談員が適していると思われる。また、話す内容を見極める力も必要といえる。いじめに関し、最近他市で校舎侵入事件があった。当市でも万が一に備え対応が後手後手にならぬよう、子ども同士のトラブルや問題行動を「問題だと認識できなくなる」ことにならないように併せてお願いする。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	① 教育ツーリズムによる「本質を追い求める教員が集う街」の実現
	学校教育課 教育研究所
活動内容	ふるさとキャリア教育が掲げる理念の先見性、生み出す活動のクオリティ、織り成す組織のアクティビティなど公教育における先駆的、先覚的、先導的教育実践を追求し、教育ツーリズムを通して、参集を希望する志ある全国の教員が、あるべき教育の姿を語り合う場を設定する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	令和6年度の教育ツーリズムによる訪問要請の受け入れ実績は、実人数がおおよそ770人、交流都道府県も20を超えている。令和5年度は東北市町村教育委員会連合会の開催地となったため、実人数が1,000超であったが、令和6年度は全国小学校キャリア教育研究大会を実施し、全国広範囲との交流が実現した。これにより、大館市教育委員会と交流実績のある都道府県が全国47都道府県に達した。 今年度の教育交流では、視察プログラムの中に、「教育実践についての懇談の場」を設定し、学力向上等施策にかかる協議を視察団体が進行役となって進めていただくこととした。これにより、受け入れ校においては管理職のほか、研究主任、もしくは特色ある授業実践を展開している教員等の同席が見られるようになり、自校の中核的教員等人財育成に活かそうとする管理職の意識の高まりがみられた。
課題等	令和6年度は、視察依頼等の各校への均等な振り分けに一定の成果が見られた。これは、校長会が「計画的な視察」にかかる調整役を主体的に行ってくれたことが大きい。事務局の情報を積極的に各校で共有しながら、受け入れにかかる要望や課題等についても早い段階で協議することができた。 大館市教育委員会事務局としては、外部教育関係者との交流を通して、「大館市公立学校教員の資質向上に役立てる」という本質的なねらいを常に持って調整を図っているが、各校の受け入れ対応等には、学校ごとに差異が生じていることも事実である。今後は、大館市の教員が「外に出向いていく交流」も意識し、教育交流と人財育成の関係性をより実感できる方策を考えていきたい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	方法を変えながら、市内の教職員を育成していこうという取り組みがみられる。 教育実践についての懇談の場を設けたこと、校長会が視察の調整役を主体的に行ったことは画期的だと思う。 ここから更に、一歩でも半歩でも先に行くために、視察があることによって市内の教職員だけでなく、児童生徒も意識が高揚し、(視察先を)積極的に受け入れながら(視察先から)積極的に学ぼうという姿勢が芽生えることを切望する。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	大館教育を起点として、社会、全国、世界との架け橋を構築する
	担当課(館)
	② ふるさとの価値を多面的かつ広域的に捉える機会の充実
	学校教育課 教育研究所
活動内容	子どもサミットや海外研修等の活動を通して、ふるさとキャリア教育による学びを通じて成長した児童生徒が、全国や世界の視点からふるさと大館を見つめることで、豊かな未来についての想像力や思考力、社会に働きかける実践力などを伸長するとともに、その姿を積極的に地域に発信する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	子どもサミットについては、年2回の代表会議を庁舎議場で開催されるようになってから、多くの市議会議員の皆様や学校関係者、保護者にも参観いただき、小・中学生の視点で「大館市をよりよくする方法」を考え、提案、情報発信をする場となっている。昨年度は、特に、子どもたち自身が「メディア依存に関わる諸問題」を自分事として捉え、各校で特色あるメディアコントロールの活動を進めた。自校の活動にとどまらず、中学校区で連携をし、縦のつながりのある活動を展開した学校もある。今後も、未来大館市民のリーダーとしての気概を高め、「地域のために、学校のために私たちにできることは？」について考え、取り組んでいく予定である。 海外研修については、研修の充実を図るため、全6回に渡る事前学習会を実施し、日常英会話の他、昨年度の研修生による講話を聴いたり、研修先での生活経験者から現地の生活や研修の際のアドバイスを受けてたりなどの学習を行った。研修先のニュージーランドでは、文化施設や学校訪問、ファームステイ等の体験活動を行い、異国の歴史や文化に触れ、日本との違いや互いのよさに気づいたり、ふるさと大館や自己を見つめ直したりすることができた。
課題等	年2回の代表会議後には、参加した代表委員が自校で報告や伝達を行っているが、その方法等については学校間に差があるように感じる。各校の担当者にしっかりと働きかけ、子どもサミットの共通実践事項が徹底されるようにしたい。 物価高騰の折、海外研修においては、保護者負担が年々大きくなっているのが現状である。生徒の成長にとって大きな効果を与える本研修であるため、今後も広く門戸を開き、多くの生徒にとっての貴重な学びの場として継続していきたい。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	教職員と違い、子どもたちは自校と他校とを比較することがあまりないことから、子どもサミットは子どもたちの視野を広げることができる貴重な取り組みと考える。 当初は、あいさつ運動やプルタブ、ペットボトルキャップ集めの活動であった。震災後は釜石市との交流が始まったが、他校の考え、他校の取り組みを知ること、大館の子どもたち、自分たちの力で何ができるのかということ、を新たに模索し開拓して取り組んでほしい。 海外研修も物価高騰の折、予算化が大変だと思うが、ぜひ続けてほしい。

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	① 就学前教育及び中等・高等教育とのつながりを重視した「教育の縦の基軸」の強化
	学校教育課 教育研究所
活動内容	幼保小架け橋プログラムにより策定した幼保小の接続カリキュラムを、すべての小学校やこども園等が実践できるようにするとともに、地域の県立高等学校、特別支援学校、大学等のリーダーの方々との教育理念や教育実践について議論を交わす「教育懇談会」の開催を通して、教育ベクトルの一体化を図り、未来大館市民に直径する縦の機軸を強化する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)
	<p>文部科学省委嘱事業「幼保小の架け橋プログラム」のモデル自治体として、市内全ての小学校が接続カリキュラムを策定した。カリキュラム作成作業、さまざまな連携や交流活動を通して、園と小学校の信頼関係が構築され、共に架け橋期の子どもたちを育てる機運が醸成された。</p> <p>7月に開催された「教育懇談会」においては、各小・中学校、高等学校、支援学校、短大及び大学のキャリア形成に係る取り組み状況や、各校の児童生徒、学生の実態を踏まえた「未来大館市民」の育成についての成果や課題、そして今後の展望等について協議を行った。</p>
課題等	<p>完成した幼保小の架け橋期のカリキュラムに基づいて、全小学校・園が連携や交流、日常の授業・保育の改善に取り組むことになる。引き続き、幼保小の架け橋プログラム促進事業を活用して架け橋コーディネーターを配置し、新たなモデル地区(有浦小・扇田小)を指定しながらカリキュラムを検証し、幼保小連携を一層推進する。</p> <p>大館への愛着や地域に貢献しようとする意欲を、定住、地元就職、地域社会への参画意識へつなげるための方策について、引き続き「教育懇談会」の場において協議を進める。</p>
	<p>取組の方向性</p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>幼保小にしても、小中にしても、中高にしても節目のあるジョイント部分に力が込められており、未来大館市民のために「教育の縦の基軸」が一貫して盛り込まれた施策であり、大変評価出来る。</p> <p>教職員だけでなく市教委のバックアップがあつてのものであるため、地道に続け、また熱い想いを込めていってほしい。</p> <p>将来の成果が楽しみな施策である。</p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
3	学校と地域が織りなす教育活動の充実を図る
	担当課(館)
	② 地域住民や民間企業等との連携等「教育の横の基軸」の生かしたスクール・コミュニティの形成
	学校教育課 教育研究所
活動内容	学校が核となり、地域住民や民間企業と連携した多様な教育活動を創出することで、主体的対話的なスクール・コミュニティを一層活性化するとともに、そこから生まれる様々な発想の実現を通して社会的有用感を育て、社会変革力や実践力の育成を図る。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) <p>令和6年度、市内10の小学校在創立150周年を迎え、各校では地域とのつながりを深めるさまざまな記念事業が行われた。このうち、桂城小学校では地域の名物や名所、行事を取り上げたオリジナルかるたの作製、花岡小学校と川口小学校では記念花火の打ち上げ、西館小学校では子どもたちのメッセージを書き込んだランタンで夜空を彩るなど、地域の方々とともに各校で工夫を凝らした記念イベントが盛大に行われた。</p> <p>各校の学校運営協議会委員は、記念事業の実行委員になるなど、積極的に事業に参画し、学校と地域をつなぐ重要な役割を果たした。</p> <p>学校運営協議会の設置状況及び委員数 小中単独22協議会、小中合同協議会3協議会(6校) 各校の保護者や地域住民など延べ257人</p>
課題等	令和5年度に全ての小中学校(城西小除く)にコミュニティ・スクールを導入し、各校の保護者や地域住民など、延べ257人を学校運営協議会委員に任命した。任期は2年間であるため、令和7年度に新たに任命する必要がある。 委員の任命は、各校長からの推薦をもとに決定するため、各校との連携を密にし、手続きを進める。
学識経験者等意見	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	地域住民、民間企業との「横の基軸」であるこのコミュニティスクールを導入した初年度は困難であったと思う。難しくせず、新しいものをどう工夫して活用して行くかだと思う。 PTAそのものが他市の中学校のように解体という事が大館はないと思うし、こういった事業は効果的と判断する。在籍校の保護者だけでなく、地域を巻き込みながら学校に協力できる体制が整っていることは大館の強みだと思う。 150周年記念事業もこういった方々の協力があるから執り行える。非常にありがたい事業である。事業終了した後などに子どもたちが達成感を感じている事は教師冥利に尽きる。

基本目標																																																										
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化																																																									
重点施策																																																										
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める。 担当課(館)																																																									
① 児童・生徒主体で進行・展開していく「おおだて型授業(響学)」の推進 学校教育課 教育研究所																																																										
活動内容	「おおだて型授業＝共感的・協働的学び合い(響学)」の質を更に高めるため、「教育パートナー化」を推進する。児童・生徒が学びの主体となり、違いや良さを認め合いながら進行・展開していく授業を目指し、学校訪問等を通して各校に指導・助言を行う。また、おおだて型学力推進委員会で発行する「SHI・N・KA」に、第0次学力向上に関する提言についての各校の効果的な実践をまとめ、全教職員に周知を図る。全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の児童生徒質問紙の「おおだて型学力」に係る項目について、データの分析を継続していく。																																																									
点検評価	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>□ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>■ 目標どおり (95～100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80～94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>【全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙】Q:学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると思う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>小6</p> <table border="1"> <caption>小6 点検評価データ</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>Yes (%)</th><th>No (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3(市)</td><td>46.8</td><td>38.6</td></tr> <tr><td>R4(市)</td><td>40.1</td><td>44.0</td></tr> <tr><td>R5(市)</td><td>44.3</td><td>43.0</td></tr> <tr><td>R6(市)</td><td>37.7</td><td>52.8</td></tr> <tr><td>R6(県)</td><td>40.9</td><td>48.8</td></tr> <tr><td>R6(国)</td><td>44.9</td><td>41.4</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>中3</p> <table border="1"> <caption>中3 点検評価データ</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>Yes (%)</th><th>No (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3(市)</td><td>40.8</td><td>45.3</td></tr> <tr><td>R4(市)</td><td>41.4</td><td>45.8</td></tr> <tr><td>R5(市)</td><td>41.9</td><td>43.3</td></tr> <tr><td>R6(市)</td><td>43.0</td><td>46.1</td></tr> <tr><td>R6(県)</td><td>43.3</td><td>48.2</td></tr> <tr><td>R6(国)</td><td>49.7</td><td>36.4</td></tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>【県学習状況調査 児童生徒質問紙】Q学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。</p> <table border="1"> <caption>県学習状況調査 児童生徒質問紙 傾向</caption> <thead> <tr><th>地域</th><th>小4～小6 (%)</th><th>中1～中2 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>R3</td><td>87.6</td><td>91.5</td></tr> <tr><td>R4</td><td>88.7</td><td>89.0</td></tr> <tr><td>R5</td><td>88.0</td><td>90.2</td></tr> <tr><td>R6</td><td>88.5</td><td>88.6</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>	地域	Yes (%)	No (%)	R3(市)	46.8	38.6	R4(市)	40.1	44.0	R5(市)	44.3	43.0	R6(市)	37.7	52.8	R6(県)	40.9	48.8	R6(国)	44.9	41.4	地域	Yes (%)	No (%)	R3(市)	40.8	45.3	R4(市)	41.4	45.8	R5(市)	41.9	43.3	R6(市)	43.0	46.1	R6(県)	43.3	48.2	R6(国)	49.7	36.4	地域	小4～小6 (%)	中1～中2 (%)	R3	87.6	91.5	R4	88.7	89.0	R5	88.0	90.2	R6	88.5	88.6
地域	Yes (%)	No (%)																																																								
R3(市)	46.8	38.6																																																								
R4(市)	40.1	44.0																																																								
R5(市)	44.3	43.0																																																								
R6(市)	37.7	52.8																																																								
R6(県)	40.9	48.8																																																								
R6(国)	44.9	41.4																																																								
地域	Yes (%)	No (%)																																																								
R3(市)	40.8	45.3																																																								
R4(市)	41.4	45.8																																																								
R5(市)	41.9	43.3																																																								
R6(市)	43.0	46.1																																																								
R6(県)	43.3	48.2																																																								
R6(国)	49.7	36.4																																																								
地域	小4～小6 (%)	中1～中2 (%)																																																								
R3	87.6	91.5																																																								
R4	88.7	89.0																																																								
R5	88.0	90.2																																																								
R6	88.5	88.6																																																								
課題等	<p>令和6年度全国学力・学習状況調査(学校質問)からは、一人一人の資質・能力の育成に向けた授業の充実について、教職員が課題意識をもっていることが分かった。「児童生徒が自分の考えを相手に伝わるように工夫すること、教師が一人一人に目を向け、集団の学び合いの中で個を更に高める支援をすること」に課題があると考えられる。おおだて型授業を通して子どもたち一人一人の資質・能力を更に伸ばしていくためには「子どもの質の高い学び」と共に、「学びを支える適切な指導・支援」という2つの視点が必要不可欠であると考えます。</p> <p style="text-align: right;">取組の方向性</p> <p>■ 継続</p> <p>□ 廃止検討</p> <p>□ 単年度</p>																																																									
学識経験者等意見	おおだて型授業の長年の成果が大館の子どもたちの姿に表れている。一人一人の成長に差はもちろんあるが、個が向上することによって集団が伸びていく。響学を大事にして子どもたちを育てて欲しい。子どもを主体とした授業が本来の授業である。始めと終わりど指示に従うという学習ルールがおろそかにならないように教職員の指示はできるだけ少なく、集団には個の差があるのでそれを陰ながら支えて、一人一人を置き去りにしない寄り添った学びをしてほしい。また、若手教職員のレベルアップも必要となるだろう。																																																									

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
4	児童・生徒が教育パートナーとして支え合い、「おおだて型授業(響学)」の質を更に高める。 担当課(館)
	② 「おおだて型授業(響学)」の実効性を高めるツールとしてICTを効果的に活用 学校教育課 教育研究所
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用を支援する。 校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるようにデータを蓄積していく。 学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。
点検評価	<p> <input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95～100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80～94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) </p> <p> 市内25校でのICT活用支援のため、市教委にICT支援員を1名配置し、各校の要望に合わせ、実際に出向いて支援にあたっている。また、各校ではICT活用推進委員が中心となり、授業におけるICTの効果的な活用が進められている。年2回行われるICT活用推進委員会では、ICTの活用に関わる成果点と課題点を協議し、改善点を次年度につなげている。秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙の結果においても、数値の上昇が見られる。 秋田県学習状況調査の児童生徒質問紙(小4～中2の平均)においても、ICTに関わる項目において、全て県平均を上回っている。(県を100とした市の指数) 1. 普段の授業では、コンピュータなどのICT機器をどのくらい使用していますか……………103.3(R5:97.1) 2. あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を他の友達と意見を交換したり調べたりするために、どのくらい使用していますか………102.9(R5:95.8) </p>
課題等	<p> 各校のICT推進委員を核として、全小・中学校に整備されたタブレット端末、電子黒板、学習支援ソフト、デジタル教科書等の活用躊躇している学校を、重点的に支援する。 校務支援システムの書庫に、国語科・算数科・数学科において、ICTの効果的な活用場面を位置付けた年間指導計画や、各校のICTの効果的な活用実践事例を入庫し、教職員がいつでも閲覧できるように蓄積していく。 また、学校の壁を越えた学習スタイルを推進し、オンラインを活用し、複式学級のある学校同士が日常的に繋がる等、授業の中で多様な見方や考え方に触れ合えるようにする。 </p> <p>取組の方向性</p> <p> <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度 </p>
学識経験者等意見	<p> 私の教師時代は、せつかくの機器を使いこなせない教職員が多く、それに合わせた研修も多く行った。機器の発達もあるだろうが、現在は教職員がこぞって使用しているようで安心した。 予算確保した市教委やICT支援員をはじめ、関係者の皆さんに感謝する。 学校の壁、垣根を越えた授業をこれからも拡散し続け、身になるような授業展開を楽しみにしている。 </p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する
	担当課(館)
	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築
	学校教育課 教育研究所
活動内容	<p>・現行学習指導要領に則った、英語教育をはじめとする各教科・領域のカリキュラムの作成や教職員の研修を充実する。</p> <p>・特に小学校英語では、学級担任・外国語活動支援員の専門性向上、小・中学校英語のより良い接続を目指し、小学校英語教育推進委員会による課題の明確化とその解決のための具体的な施策を着実に実行する。</p> <p>・電子黒板、タブレットパソコン、デジタル教科書やデジター教科書の効果的な活用により、教育の更なる充実を図る。</p>
点検評価	<p>■ 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p>□ 目標どおり (95～100%)</p> <p>□ 目標をやや下回る (80～94%)</p> <p>□ 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>教育課程の計画・報告の点検、学校訪問等での確認により、小中学校とも現行の学習指導要領が適切に実施されている。特に小学校は教科書改訂に伴う各教科の年間指導計画も改訂され完全実施となり、購入したデジタル教科書・教材を活用した授業改善が進んでいる。同様に中学校の来年度からの各教科の年間指導計画も中学校教育課程編成委員会によって策定済みである。</p> <p>市としての課題となっていた外国語に関しては、小中の連携、学力面でも一定の成果を得て、小学校英語教育推進委員会を発展的解消とした。秋田県学習状況調査において、中学校1年生が県比102、2年生が県比103、「外国語が好きだ」についても1年生が105.9、2年生が107.3と向上した。</p> <p>全小学校の全授業に外国語活動支援員を派遣しており、昨年度までの課題となっていた「読む」「書く」についても学習到達度調査(CRT)において5・6年生が全国平均を大きく上回る結果となった。</p>
課題等	<p>外国語のコミュニケーション力を一層高めるために、各小学校への外国語活動支援員の配置、電子黒板の更新については予算の確保に努める。</p> <p>また、教科書のデジタルコンテンツが充実する中、子どもたちが主体的にタブレット・パソコンを活用して学びを進める環境整備を推進する。</p>
	取組の方向性
	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>これまでの大館の教科課題というか弱点は、全国や全県と比較しても英語であった。それが小学校英語教育推進委員会を発展的解消し、県学習状況調査でも学力が向上したことは喜ばしい。</p> <p>英語が小学校で教科化され、関係者の努力により大館では成功したといえるのではないかと、嬉しい驚きである。一丸となって何とかしようとする熱意のたまものである。「教育の縦の基軸」がここでも生かされていると思う。しかし、慢心せず引き続き頑張りたい。</p>

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
5	学習指導要領に対応した教育環境や基盤の整備を推進する
	担当課(館)
	② 学校と行政の連携により個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備
	学校教育課 教育研究所
活動内容	<p>・GIGAスクール構想により導入した1人1台タブレット端末の更新を円滑に実施するため、次期導入端末や多様化する学習支援ソフトの選定を学校との連携を図りながら進める。また、校内通信ネットワーク環境の改善とセキュリティ対策の充実についても検討する。</p> <p>・現在の校務支援システムの更新を見据え、クラウド型の統合型校務支援システムの導入を検討する。</p>
点検評価	<p><input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%)</p> <p><input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満)</p> <p>児童生徒1人1台端末の整備は、国のGIGAスクール構想により令和2年度に整備し、その年の12月から5年間のリース契約により現在に至っている。このリース契約も本年11月末で終了し、加えてWindows10のサポートも10月で終了することから、国の補助金を活用して児童生徒用タブレット端末などを令和7年度中に新規整備する。また、前回整備できなかった教員用端末も新規に整備する。</p> <p>校内通信ネットワーク環境の改善とセキュリティ対策については、令和7年度中に全校(25校)でネットワーク改修を実施し、児童生徒が安全・安心してインターネットを利用できるようWebフィルタリング機能を導入する。</p> <p>校務支援システムの更新については、秋田県で進めている統合型校務支援システムの機能が充実していて、運用経費等も安価となる見込みであるため、令和7年度中に新たなシステムに切り換えることとした。</p>
課題等	<p>・1人1台端末の更なる利活用にあたり、文部科学省が学校の規模ごとに「当面の推奨帯域」としてネットワーク帯域(速度)を公表しているが、県内にはこれを満たす安価なインターネット回線が提供されていないため、今後の事業者の展開を待つ必要がある。</p> <p>・学校間で利活用に差があることから、指導する教職員側も研修会や事例、課題の共有を図り、利用しやすい環境を整える必要がある。</p> <p>・次世代校務DX環境整備の入り口として、校務系と学習系ネットワークを統合したが、今後は校務用端末と指導者用タブレットを統合し、教職員も1人1台環境にすることを検討が必要。</p>
	取組の方向性
	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等意見	<p>この事業も多大な予算が必要と思われる。教職員も児童生徒もきちんと使いこなすことが市教委に対し報いることになると思う。ついにこういう時代が来たかというのが正直な感想である。</p> <p>保護者の授業参観などで児童生徒が使いこなす姿を見てもらうことが市教委のPR活動となるのでは。備品は配布されて当然ではなく、感謝を忘れず無駄のない使い方をして、未来の大館市民となる児童生徒を育ててほしい。</p>